



【協力】 札幌建築鑑賞会
(順不同) <https://ameblo.jp/keystonesapporo/>



国土交通省北海道開発局札幌開発建設部
<https://www.hkd.mlit.go.jp/>

札幌市公文書館
<https://www.city.sapporo.jp/kobunshokan/>

札幌市博物館活動センター
<https://www.city.sapporo.jp/museum/>

※二次元コードを読み取ると、各ホームページにアクセスできます。
※このほかにも、取材の際は多くのみなさまにご協力いただきました。
心より御礼申し上げます。

【発行】 平成27年(2015年)9月 初版発行
令和7年(2025年)9月 6版



【制作】 札幌市下水道河川局
事業推進部 河川事業課
TEL:011-818-3414 FAX:011-812-5241

川めぐりマップ 札幌市



創成川 いまむかし

創成川は札幌の街と共に形を変え、その歴史を刻みつけてきました。

札幌の創成期、開拓使は舟での物資輸送に活用するため、当時掘られていた大友堀の幅を広げ、また豊平川の分流だった鴨々川とつなぐことで水量を増やしました。これが創成川の原形です。

現在の創成川は中島公園の南端で豊平川の水を引き込み、市街地を抜けて石狩市との境界付近で伏龍川に合流する、長さ約14kmの川です。

■創成川と札幌のまちづくり

1869年(明治2年)に設置された開拓使は札幌の市街地の町割り进行を定め、まちづくり(本府建設)を進めました。南北に創成川、東西に渡島通(銭函道、現在の南一条通)を中心に、これと並行して東西南北に区画を配したのです。1872年(明治5年)には創成川の東側に開拓使の製作場が設けられ、当時流れていた胆振川から工業用水を引いて利用しました。また川は街区の形にも影響しました。大通以南の創成川を中心とした地区は、仲通りが川に平行して南北に通じ、街区が東西に対して縦長になっています。

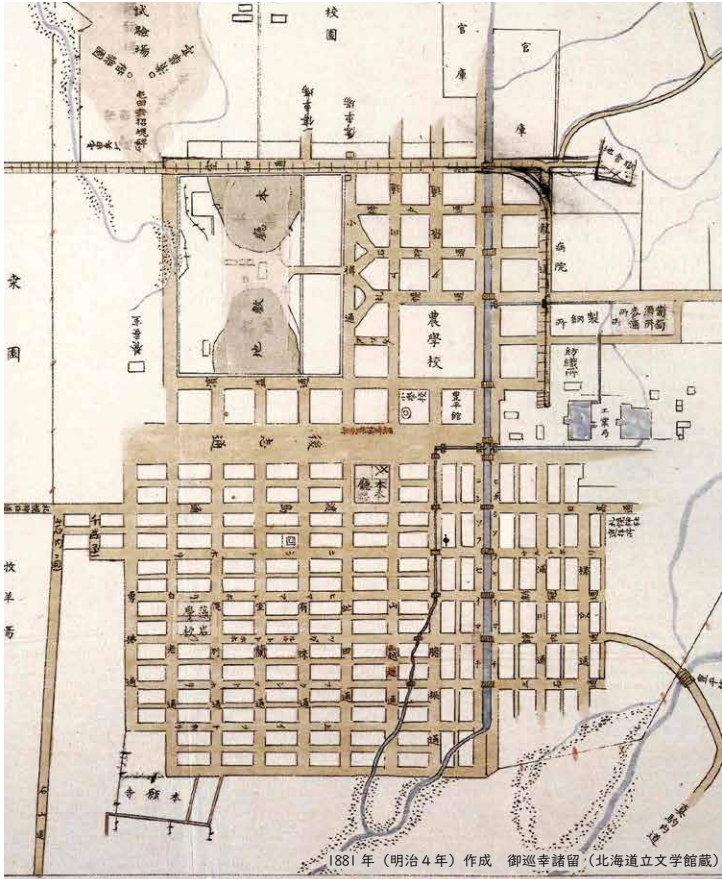
札幌の街の成り立ちには、川や水路が大きな役割を果たしてきたと言えるでしょう。

■昔日の面影を伝える鴨々川

現在の創成川のうち、創成川樋門から鴨江橋までの上流部約2.5kmの区間は鴨々川とも呼ばれ、蛇行した昔の河川の姿を今に残しています。

札幌の市街地は豊平川によってできた扇状地の上につくられました。地質などを調べてみると、豊平川がいくつかの大小の流れとなって網の目のように流れながら扇状地を形成していったことがわかります。明治初期の胆振川や鴨々川は、このような流れのひとつでした。

※胆振川：鴨々川から分かれ、伏龍川へと連なる自然河川でしたが、明治の初め頃から水路へと整備されていきました。『胆振川』の名は、当時の胆振通(現・西2丁目線)沿いを流れていたことに由来します。昭和初期に暗渠化されました。



1881年(明治4年)作成 御巡幸諸留(北海道立文学館蔵)



大正後期 札幌創成橋付近より南部遠望(札幌市公文書館蔵)

川べり散歩 おもな見どころ

創成川(鴨々川)のウォーキングルートを歩きながら、川やまちを再発見してみませんか？

① 開拓使工業局跡

1872年(明治5年)に開拓使の製作場(後の工業局)が設けられました。木挽・製材・鍛鉄・製鉄などが営まれ、建築資材や農機具などが製造されて、北海道開拓に貢献しました。工業用水を引いていた胆振川は姿を消しましたが、現在も残る町工場に歴史の面影が感じられます。当時の工業局庁舎は、「北海道開拓の村」に保存され、国の重要文化財に指定されています。

② 創成橋・③ 開拓使の本陣跡

大友堀にあった丸太橋が1871年(明治4年)に架け替えられ、岩村判官によって「創成橋」と名付けられました。後に出水で流されましたが、1910年(明治43年)に石のアーチを組んだ橋が新たに架けられました。なお、この橋は2006年(平成18年)に解体され、現在の橋は2010年(平成22年)に復元されたものです。

また、創成橋のそばには1871年(明治4年)から1879年(明治12年)まで開拓使の官宅(本陣)が建っていて、札幌農学校のクラーク博士も滞在しました。

④ 胆振川の名残

西1丁目と西2丁目を分ける南北の通りは道幅が14間(約25m)あり、他の通りの11間(約20m)に比べてやや広くなっていました。これは鴨々川の分流(胆振川)に沿って道路を敷設したため、その分広くなったもので、今もその名残が感じ取れます。

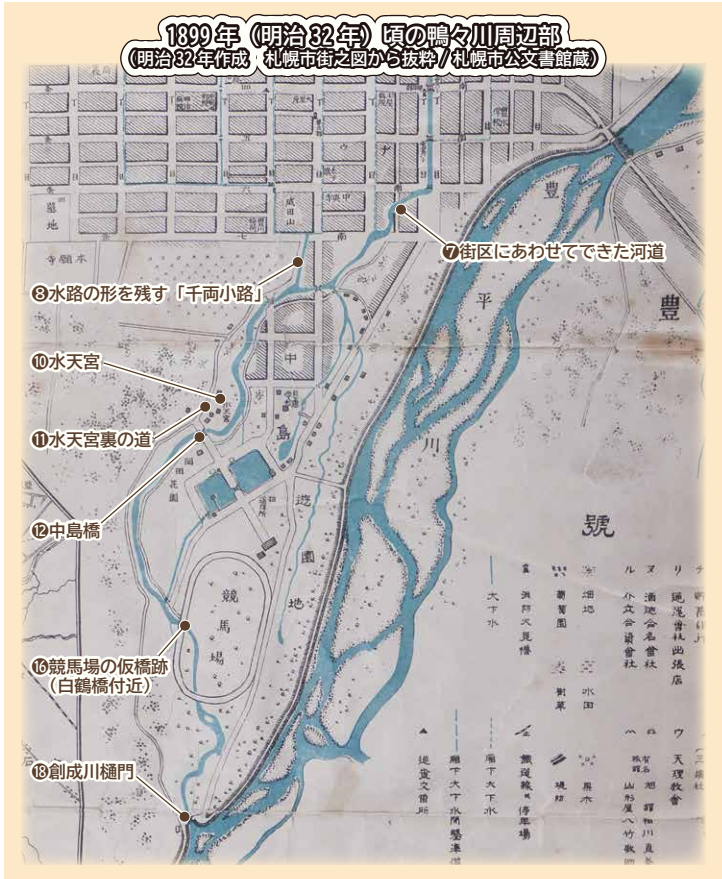
右の写真は、1875年(明治8年)頃の南1条西1丁目南西角の写真です。手前に直線化された胆振川が見えます。

⑤ 二条市場

かつて創成川は舟運と物流の拠点でした。二条市場は明治後期につくられた「二条魚町」に由来し、漁師たちが始めた小規模な鮮魚店から市民の台所へと発展しました。

⑥ 創成川の分水施設・吐口工

創成川公園の親水空間に適量の水が流れるよう、水の一部を導水管に分けて流した後(分水施設)、吐口工で再び川に合流させています。



1899年(明治32年)頃の鴨々川周辺部(明治32年作成 札幌市街之図から抜粋/札幌市公文書館蔵)

⑦ 街区にあわせてできた河道

かつて豊平川から自然に流れていた鴨々川が、街区にあわせて形を変えています。(1925年(大正14年)頃?)

⑧ 水路の形を残す「千両小路」

この仲通りは、札幌には珍しい「鉤の手」の形になっています。古地図を見ると、かつてこの通りに平行して水路が開削され、その水辺を借景としたかのように「千両」をはじめとする割烹が軒を連ねていました。現在も営業している料亭にその頃の趣を感じることができます。

⑨ コイの越冬池

1980年(昭和55年)頃からこのあたりに放流されているコイ。2006年(平成18年)には川底を一部掘り下げた「越冬池」がつくられ、毎冬の引越しも不要になりました。

⑩ 水天宮

明治10年代、渡道した旧久留米藩士により、九州久留米の水天宮本宮から分霊されました。1885年(明治18年)鴨々川畔に祀られ、その後、現在地に社殿が建立されました。

⑪ 水天宮裏の道・⑫ 中島橋

札幌には珍しく、ゆるやかに湾曲した細い道は昔の川の流れに沿ってつくられた道だと考えられます。この道は明治の古地図にも描かれており、札幌市街へと通じていました。また中島橋は、当時の中島遊園地の正面入口でした。

⑬ 豊平館

中島公園の一角に建つ、淡い青と白が印象的な洋館。開拓使の「洋造旅館」として1880年(明治13年)、創成川沿いの大通西1丁目に建てられましたが、1958年(昭和33年)の「北海道大博覧会」開催の折に現在地へ移築されました。国の重要文化財に指定されています。

⑭ 鴨々川の水と「不老松」

鴨々川の畔に1本のクロマツと「不老松」碑が残されています。かつてこの一帯には料亭「鴨川」と池泉回遊式庭園がありました。「不老松」と名付けられたクロマツがその面影を伝えています。また当時、この界隈には染物を扱う店も多くあったようで、川との深い関わりがうかがえます。

⑮ 鴨々川の分水施設・吐口工

中島公園の親水空間に適量の水が流れるよう、水の一部を導水管に分けて流した後(分水施設)、吐口工で再び川に合流させています(最下部の模式図参照)。

⑯ 競馬場の仮橋跡(白鶴橋付近)

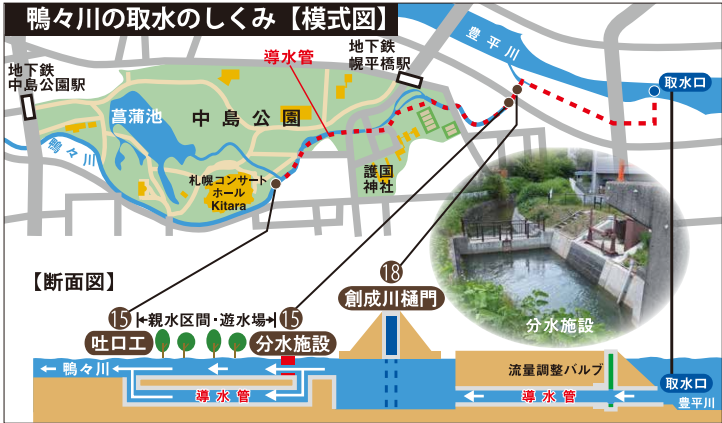
1887年(明治20年)、中島遊園地が開設されたときに競馬場が設けられましたが、そのコースが鴨々川を横切っていたため、仮橋が架けられていました。現在の白鶴橋は1996年(平成8年)の完成です。

⑰ ひっそりたたずむ祠 ▲立入禁止

札幌軟石でつくられた小さな祠があります。伏見稲荷の分祠です。豊平川の氾濫原であったことを物語る起伏が、この付近や地下鉄幌平橋駅の近くで観察できます。民有地につき立入禁止。

⑱ 創成川樋門

豊平川から取り込んだ水を創成川(鴨々川)へ流すための施設のひとつです。鴨々川の最上流部にあり、増水のときにはゲートを閉めて水害を防ぎます(模式図参照)。その歴史は1871年(明治4年)、洪水防止のため開設された「鴨々水門」にさかのぼります。



【断面図】

